

感謝するべき水

山添村立山添中学校 三年

田中 里奈

「こら、そんなんしたらあかんやん。」
私は祖父に突然怒られて、フライパンを洗
う手を止めた。祖父は排水口を指さし、
「油、そのまま流したら、水汚くなつて飲め
へんようになるで。」
と言った。私は疑問に思った。なぜこんな少
量の油を排水口に流して飲料水が飲めなくな
つてしまうのか。「水の惑星」とも呼ばれる
地球になら、大量の水があるだろう。そんな
疑問に祖父は答えた。
祖父が幼い頃、近くの川の水があふれて、
橋が水につきり、洪水になったそう。一時
避難して、洪水も収まったと思ひ、家にもど
ると、家の水が使えなくなったそう。水が
使えないと不便なことはいっぱいで、飲み水
はもちろん、食事、風呂、洗濯など、そのと

きは生活に困り果てたそう。そのとき祖父
は身をもつて、水がとでも大切だということ
に気付いたそう。
「水は人を育ててくれる大事なものやで。」
と祖父は言った。祖父が水を汚すなどというの
は、きつとそんな水に今も昔も感謝している
からだ。私は思った。
祖父のこの経験は、地球規模の問題でもあ
る。水不足、水質汚染、洪水被害の増大は、
多くの人々を悩ませているのだ。また、水の
ほとんどは海水なので、飲むことのできる水
はほんのわずかでしかない。
私は、自分を生かしてくれる水を汚し、有
限で貴重な資源を何も考えずに無駄使して
いたことに気付き、初めて水のありがたさを
知った。

先日、祖父は老人会で、近くにある「布目川」をきれいにする取り組みに参加した。川の周辺のゴミを撤去するものだった。この「布目川」は周辺の多くの地域の人々が活用する大切な川だ。だから、活用するかわりに川の水をきれいに保ち、守っていく。私はこれこそが、水との共存だと思った。太古の昔から変わることなく繰り返されている。水の大きな循環の中で、私たちは水を利用し、ときには水を汚してしまう。しかし、こうしてゴミ拾いをしていく、地域の人々の姿は、まさに水と共存しようとしているといえる。それは、今はあまり起こらない水害を知っている老人の人々が、祖父と同じように水に感謝している証なのだ。

今の世の中を見渡すと、私たちは水を無駄に使っていると思う。私たちは、蛇口をひねれば美しい水を容易に手に入れられる便利な時代を生きていて、大切なことを忘れてきているのだ。水は私たちを支え、生かしてくれている。ならば、私たちも水を美しく保ち、無駄使いをなくすことが本当の水との共存ではないだろうか。祖父らが生きてきた時代から大切に

されてきた水を、私たちが受け継ぎ、次の世代へと引き継ぐ責任があるのだ。そのためには私たちが、節水や水の汚染を防ぐといった身近なことから始めていこう。その小さな一歩は、私たちを生かしてくれ、水と共存し、感謝するということにきつとながるはずだと思う。